

大賞

ドイツ国ハレ(ザール)市

クイーツ・アナ・ミレナ

ジョン先生へ

高校三年生、私達ドイツ人の学生にとって最も大事な時です。その頃よく将来について聞かれましたが、逃げ出したいと思うことが少なくありませんでした。なぜなら、私にはまだわからないという答えしかなかったからです。目の前に道が多過ぎ、また、進路選択で失敗したら、私の一回しかない人生を失敗する事だと思っていました。

その十七歳の夏、マルタ島で二週間英語を勉強していた時のことです。ジョン先生はクラスでこう言ってくれました。

「人生にはドアが沢山あります。ドアの後ろには何があるか分からない。それが怖いと思うかもしれませんが、好奇心を持って、好きなドアを開けてみて下さい。素敵な事が後ろにあるかもしれません。ドアの後ろに嫌な事があつたら、一歩下がって、そのドアまた閉めてもいいんですよ。ぜひ色々なドアを開けて、人生でかけがえのない経験をして下さい」

この言葉を聞いて、私の考え方は大きく変わりました。

その後、大学に入ったものの、専攻が自分の思っていたものと違ったことに気が付きました。家族を心配させたくなかったので、知らせずに大学を辞め、働いてお金を貯めました。同時に他の道も考え始めました。子供の頃に漢字の本を見て以来、日本語に深い興味があり、十八歳の時に日本旅行をしてからは、いつか日本に住みたいと思っていました。よく考えた末、日本への留学を決めました。家族に伝えた時はショックを受けたようでしたが、私の考えをちゃんと説明した結果、皆が応援してくれました。ドアの後ろに私の人生に合わないことがあると気付いた時、勇気をもってドアを閉めて、新たな道を見つけたのです。

来日し、幸せな二年が過ぎました。この秋からドイツの大学で日本学を専攻します。ここにくるまで時間はかかりましたが、今回は間違っていないと信じています。ジョン先生の温かい言葉のおかげで幸せを探す勇気を持ちました。ありがとうございました。